

# 教材活用シリーズ 第141回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

## 「社会」をつくる力 多様な視点を身につける公民教材

東京法令出版株式会社  
『見る，解く，納得！  
公民資料』



東京法令出版株式会社  
教育事業推進部

令和3年度実施の新学習指導要領に対応して全面改訂を行った本書は、「生徒がどう考えたのか」に重点をおいた公民の資料集です。新学習指導要領では、ひとつの事象を考える際に、ひとつの視点や方法で考えるのではなく、さまざまな状況や立場、角度から事象をとらえ、「多面的・多角的」な思考ができることが重要になります。本書では、情報があふれる現代社会を生きていくなかで、権利や制度、しくみといった公民分野の学習事項を理解するとともに、資料を読み解き、どう考え、どう結論づけたのか、生徒自身の思考過程を論証する

ための「素材」を提供しています。なかでも、新学習指導要領で提起された「見方・考え方」を学習ツールとして活用できるように、「視点」「思考スキル」「思考ツール」を視覚化し、さらに「SDGs」を加えて掲載しました。資料を読み解く際、どの立場で考えるかのヒントとなる「視点」では、かねてより重視されてきた「対立と合意」「効率と公正」の視点だけではなく、「民主



**見方・考え方パネル**

このパネルは、教材内容を整理し、学習者が理解しやすいよう、各単元ごとに作成されています。各単元の学習目標や、教材の構成、学習の進め方などが一目でわかります。

**視点**

- 1. 個人の視点から見る
- 2. 社会の視点から見る
- 3. 国の視点から見る
- 4. 世界の視点から見る
- 5. 未来の視点から見る
- 6. 過去の視点から見る
- 7. 多様な視点から見る
- 8. 多角的視点から見る
- 9. 多面的視点から見る
- 10. 多角的・多面的視点から見る
- 11. 多角的・多面的・多面的視点から見る
- 12. 多角的・多面的・多面的・多面的視点から見る
- 13. 多角的・多面的・多面的・多面的・多面的視点から見る
- 14. 多角的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的視点から見る
- 15. 多角的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的視点から見る
- 16. 多角的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的視点から見る
- 17. 多角的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的・多面的視点から見る


**思考スキル**

- 1. 見方・考え方を整理する
- 2. 見方・考え方を整理し、関係づける
- 3. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意
- 4. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ
- 5. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意
- 6. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意
- 7. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 8. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 9. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 10. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 11. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 12. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 13. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 14. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 15. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 16. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意
- 17. 見方・考え方を整理し、関係づける、対立と合意、イメージマップ、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意、対立と合意

主義」や「多様性」「分業と交換」といった公民的な概念を盛り込んでいます。また、「思考スキル」では、「関係づける」「要約する」といった思考方法を、「思考ツール」では、ベン図やイメージマップなどを使って自分の考えをまとめる方法を提示しています。それぞれのアイコンには、「こういった視点で考えてみよう」「この思考方法を用いてみよう」といったガイドを設け、授業では、この「見方・考え方」をまとめた折込を引き出して手元に置くことで、常に「見方・考え方」を意識しながら資料を読み解けるよう設計しました。

**テーマ 45 国際連合**


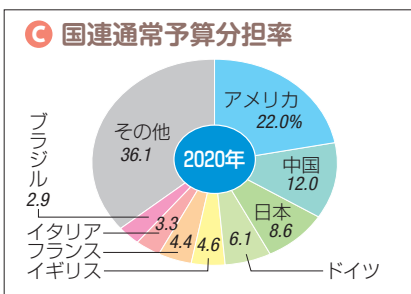
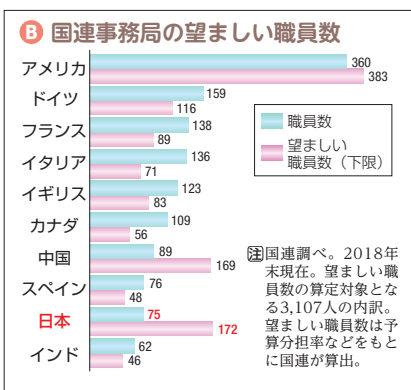
→0 「Guernica」…スペインの画家パブロ・ピカソによる油絵。スペイン内戦中の1937年に描かれた。タイトルは、内戦中に無差別爆撃を受けた都市の名前。戦争の悲惨さを伝え、反戦をうたった作品。（スペイン ソフィア王妃美術館 2003.5）



**記述レッスン**

Step 1 読み取ろう → 資料2 B C

国際連合の望ましい職員数と国連通常予算分担率には、どんな関係があるかな？

この「見方・考え方」をまとめた折込に対し、本書では、各テーマの冒頭にも、そのテーマ全体で身につけたい「視点」や意識したい「SDGs」を示し、学習の道しるべとしています。

また、新学習指導要領では、生徒が自身の考えをまとめたり、生徒同士が意見交換したりといった活動が重視されます。それは同時に、自分の意見をどのように導き出したか他者に伝えられること、また何を根拠に結論づけたのか論証できることが求められるということです。

そこで本書では、資料を読み取り→読み取った内容の関連性などを考え→その資料からわかる内容を論証する、この一連の流れを身につけられるよう「記述レッスン」のコーナーを設

けました。「思考・判断・表現」の観点に対応して、最後には記述で表現できることが目標です。この「記述レッスン」の発問は、誌面に登載された資料を、折込の「見方・考え方」を使って解くことが前提になっています。これは、追加の資料を探すことに重点をおくのではなく、さまざまな視点から手元の資料をより精緻に読み解く力を養うためです。

左のテーマ国際連合では、「記述レッスン」で提示された発問から、「国連事務局の望ましい職員数」と「国連通常予算分担率」の二つの資料の関連性を読み取るよう促しています。一つひとつの資料では、各国の数値を単独で理解することになりますが、二つの資料を見比べることで、望ましい職員数（人的側面）と予算分担率（経済的側面）が比例していることがわかります。どんな視点で考えればよいかは、発問についてアイコンがヒントとなります。

こうした資料読解の集大成には、折込の裏面「よみとく×まとめる ひし形ロジック」が活用できます。「思考ツール」を使って自分の考えを整理すると同時に、別の意見を想定・検証することで、ひとつの側面にとらわれない思考方法が身につきます。

さまざまな視点（立場）から論理的に思考・表現する力は、「社会」を学び創造する公民学習で重要な要素だと考えています。本書での学習が、「社会は変えられる」という未来への展望を抱く一助になることを願っています。

**「よみとく×まとめる ひし形ロジック」**

はじめに テーマと主張を設定しよう

地球温暖化問題を解決するために 原子力発電を推進するべきだ。

Step 1 理由づけ

- 138ページ①②のように、二酸化炭素が地球温暖化の原因になる。
- 141ページ③④のように原発は発電する時に二酸化炭素を排出せず、経済性も安定しているから。

Step 2 別の意見

- 143ページ⑤のように、原発は事故による放射能災害の危険性がある。
- 143ページ⑥⑦にあるように、放射性廃棄物の処理方法が決まっていない。

Step 3 主張 ①と②で書いた内容を踏まえて、自分の考えを書いてみよう

地球温暖化	二酸化炭素	排出量	減らす	ために	石油	外	エ	に	切
替えて	い	し	か	し	か	し	か	し	か
を	の	被	害	す	る	め	ど	も	立
を	の	風	力	発	電	を	中	心	に
電	力	風	力	発	電	を	中	心	に